

ICUオルガン委員会が受賞  
第5回鳥井音楽賞が決定

第5回鳥井音楽賞の審査委員会が1月21日午前10時半から東京・大手町のパレスホテル竹の間で開かれ、ICU（国際基督教大学）オルガン委員会が今年の受賞者に決定した。

審査は芥川也寸志、吉田徳郎、木村重雄、宮沢縦一、門馬直美、丹羽正明、菅野浩和、武川寛海、大木正興、吉田雅夫、吉村一夫（大木、吉田、吉村氏は欠席、文書による推せん）の諸氏によって3時間にわたって行なわれ、活発なディスカッションを通じて最終的に個人17、団体5の候補の中から昨年オルガン音楽普及に貴重な足跡を残したICUオルガン委員会が選ばれたもの。この結果は直ちに鳥井音楽財団の理事会にかけられ、全会一致で第5回鳥井音楽賞が正式決定した。

ICUオルガン委員会は1970年に設立、以来毎年春・秋に4回ずつパイプオルガンの連続演奏会を開催している。とくに昨年はフランス・オーストリアの国際的オルガニストを招いてオルガンの講習会と演奏会を成功させるなどオルガン音楽普及に意欲的活動を行なって高い評価を得た。

団体が鳥井音楽賞を受賞するのはこれが初めて。

なお、鳥井音楽賞は昭和45年サントリー（株）の創立70周年を記念して設けられたもので、前年度のクラシック音楽の発展、向上に最も寄与した日本人に送られる。（賞状・記念品・賞金100万円）運営は財団法人鳥井音楽財団（理事長佐治敬三）、本賞の審査委員会は財団の委嘱により構成されている。「鳥井」の名称はサントリー創業者鳥井信治郎にちなんだもの。

贈呈式は3月4日14時～16時、霞ヶ関ビルの東京会館で行なわれる予定。

×

×

×

審査経過

- (1) 審査は10時半から始められ、個人17、団体5が候補として推せんされた。
- (2) この候補について審査が続けられ、東敦子（ソプラノ）・岩崎洸（チェロ）・栗山昌良（演出）・林靖子（ソプラノ）・ICUオルガン委員会に対象がしぼられた。
- (3) 最終的にICUオルガン委員会を推せんする事に決定した。

#### 推せん理由

昭和48年1月、フランスのオルガン音楽の権威マリー・クレール・アランとオーストリアの大家アントン・ハイラーを招き「ICUオルガン・アカデミー」を開催、わが国初のパイプオルガンの講習会と連続演奏会を成功させた。いまようやく黎明期を迎えた日本のオルガン音楽の正統的な発展のためにその意義はきわめて高いものがあると認められる。

#### ICUオルガン委員会について

1970年同大学の教会建堂式を記念して設立。日本におけるオルガン音楽の正しい普及と発展を目的として、設立当初より春秋に4回ずつパイプオルガン連続演奏会を開いている。

#### 構成メンバーは

清水譲(委員長)、金沢正剛、伊津野左千雄、ハロウェイ・ブラウン、古屋安雄、高橋秀(順不同)

連絡先(電話)0422-31-3131

#### (写真説明)

ICUオルガン委員会の受賞を発表する佐治理事長。

以 上